

## 経済危機の中での雇用対策を



菊池 巳喜男 議員

【質問】大府市との災害時の相互援助体制は。また、交流の中で、産直施設「げんきの郷」に当市の特産物の出荷や市職員の長期派遣型相互交流は考えないか。

〔市長〕有事の際は、情報を互いに共有し、連携の中でそれぞれが持っている資機材やマンパワーなどを活用し、支援しよう。特産物の販売は

JA花巻も出荷しているルートを活用し、遠野の特産物の販売や産直同士の繋がりが持てるように展開し、また、職員交流については総合的に判断したい。

【質問】世界的金融危機の中、当市の雇用状況にも影響が出始めているが、現在の状況と高卒予定者の就職状況は。一方、過疎法は産業振興と雇用の創出など重要なものがあり、市としてどう繋げていくか。

〔市長〕市内企業でも非正規雇用者の人員削減があり、情勢は厳しい。また、来春の市内の高校卒業予定者は267名で、うち就職希望者は96名、内定者は85名、うち27名が市内企業に内定、現時点での内定取消情報は得ていない。過疎法については、所管する総務省に設置された過疎問題のメンバーでもあり、新過疎法制定に向け活動していく。

【質問】特別養護老人ホーム入所待機者が当市では189名と報道され、今後も増加傾向が考えられるが対策は。

〔市長〕当市の将来推定高齢者人口では、平成42年でも9千人と変化はないが、人口減少により介護を支える市民が減少するとの予測もあり、今以上の支援施設が必要と推定される。現在、遠野ハートフルプラン2009計画が検討委員により協議されているので、結果を待って検討を加えたい。

【その他の質問】釜石自動車道整備について

## 県立遠野病院の現状について



照井 文雄 議員

【質問】ベッド数の削減が話題になっているが、三陸沖地震に備えても常駐の整形外科医が必要であると考えるが当局の見解は。

〔市長〕医師不足の中における病院の集約化や再編は、遠野市にとっても重要な課題である。その中でも12月1日に内科医の着任を頂くことができた。来年の4月には、

新たに整形外科医と内科医の常駐医2名の準備を進めているところである。医師の招へい活動は院長をはじめとするスタッフと、市民医療整備室のスタッフが休日を問わず努力している。また市内唯一の救急患者受け入れ施設でもあり、24時間・365日フル稼働勤務である。医師をはじめ医療スタッフと患者との関係を良好に保ち、相互理解と信頼関係のもと、病気やけがの治療に専念していく環境づくりが大切である。

【質問】遠野市の交流人口が年々増加しているが、現状と今後の方向性と対策は。遠野市の子供たちの体験学習の機会をもっと増やすべきではないか。

〔市長〕この数年、農泊による農業体験を柱とする体験型教育旅行が多くなり、今年度は千葉県船橋市の中学校から延べ708人を受け入れた。また、ふるさと村での体験型旅行者数も19年度は3,829人であった。当市は今年度農水省、文科省、総務省の3省合同による「子供農山漁村交流プロジェクト」の先導型モデル地域として採択を受け、宮守小学校の児童が附馬牛と松崎の農家で貴重な体験活動を行なった。今年度の取り組みを踏まえ、遠野市ならではのプロジェクトになるように内容充実を図りたい。グリーンツーリズムの課題等には確実に対応し、NPO法人や関係団体と連携を深め充実を図りながら、特色あるツーリズムの推進に努めたい。



▲速やかな対応が求められている雇用等相談窓口



▲市の医療拠点県立遠野病院での待合室風景